

# 提 言 書

## 1 学校・教師の指導力の向上

確かな学力の向上のためには、主たる学びの場である学校の授業を充実させることが不可欠である。そのため、学校では、これまで以上に、児童生徒の学習意欲を高め、知識や技能が確実に身につくための指導法を工夫・改善することが必要である。

- 現状について全教職員の共通理解を図り、学校をあげて学力向上に取り組む。
- 一人一人の教師が高い意識を持ち、小手先ではない授業改善に努める。
- 外部講師などの積極的な活用を図り、授業の質を高める。
- 家庭学習への支援や補習授業の実施など、子どもの学びの場の拡充を進める。

## 2 コミュニケーションの充実

子どもたちが意欲を持って学習に取り組むためには、認め、励ましてくれる周囲の人々の存在や、温かい人間関係が重要である。そのために、何よりも、保護者は子どもが安心して暮らせる温かい家庭を築くとともに、学校は日常的に家庭や地域と連携を図ることが必要である。

- 家庭では、保護者は子どもを温かく見守り、規律ある生活習慣の育成に努める。
- 学校では、教師は子どもたちの小さな声にも真剣に耳を傾け、確かな信頼関係を築く。
- 学校と家庭、保護者同士のコミュニケーションを深める。
- 授業参観や学級懇談のあり方を工夫し、保護者の思いや考えが届きやすくする。

### 3 情報発信の工夫

「わからないこと」や「知らないこと」が多いと、人は疑心暗鬼となり、互いの信頼関係を結べない。そのため、学校は自らの教育実践について積極的に情報発信することが必要である。また、市民や保護者に対する教育委員会からの情報提供も大切である。

- 学校から家庭・地域への情報発信・啓発を充実させる。
- 教育委員会から家庭・地域への情報発信・啓発を充実させる。
- メールの活用など多様な情報発信の方法を工夫する。

### 4 本市ならではの取組の工夫

帯広市には豊かな自然や大らかな気風、生涯学習の精神など、子どもの学びを支える良い環境が整っている。そのため、教育委員会や学校は、これまで以上に、帯広市ならではの教育を追求するとともに、保護者や地域住民等は積極的に学校をサポートすることが必要である。

- 帯広市ならではの学校教育を一層推進する。
- 帯広市独自の継続的な学力評価を進める。
- 学校支援ボランティアの活用を全市的に進める。

## 5 教育環境の整備

社会の変化に伴い、学校を取り巻く環境が大きく変化してきている。学校が対応する今日的な教育課題も多岐にわたっている。そのため、教育委員会は、教師が子どもの学力向上に十分に対応できるよう積極的に支援することが必要である。

○教師が児童生徒の指導に専念できる教育環境の整備を進める。

○国や道に教職員の定数改善などを求めていくとともに、「教員加配制度」等を積極的に活用する。

# 帯広の子ども達の学力向上に みんなで取り組もう！

## 学校への期待

- 1・すべての教師が子どもの学習意欲を高め、よくわかる授業づくりに取り組むこと。
- 2・授業の中で、基礎・基本の習得や活用の時間を十分確保すること。
- 3・学校のホームページなどで積極的に情報を発信し、授業を広く公開し、協議や懇談の場面を工夫すること。



## 5つの提言の柱

- 1 確かな指導力
- 2 活発なコミュニケーション
- 3 積極的な情報提供
- 4 帯広独自のアイディア
- 5 教育環境の整備



## 保護者への期待

- 1・日常的な子どもとの対話を大切に、学校の話や将来の夢などに耳を傾けること。努力を認め、ほめること。
- 2・「早寝・早起き・朝ご飯」など、規則正しい生活を送らせること。
- 3・学校の授業に関心を持ち、関連付けた家庭学習を支えたり、学校(教師)と授業について積極的に意見交換すること。

## 教育委員会への期待

- 1・学校、家庭、地域の連携を図る仕組みづくりや、双方向のコミュニケーションを深める取組を進めること。
- 2・各学校の実践や教育委員会の取組を積極的に発信すること。
- 3・各学校の授業改善の支援や、本市独自の取組に加え、地方として国や道に積極的に働きかけること。

## 地域への期待

- 1・今、どのような教育活動が行われているか学校を見に行ったり、ボランティアで学校を支援したりすること。
- 2・近所の子ども達には積極的に挨拶や声かけをすること。
- 3・子ども達とふれ合う機会のある行事に積極的に参加すること。

## 添 付 資 料

### プロジェクトチーム会議の概要

#### 1. 検討の経緯

- ・平成19年度より3カ年にわたって実施された全国学力・学習状況調査における帯広市立小中学校の調査結果を踏まえ、これまでの取組を総括し、幅広い視点から学力向上に向けた改善策等について検討した。

#### 2. 委員の構成（全26名）

- ・次のとおり計26名で委員会を構成した。

- 保護者
  - ・帯広市PTA連合会（4名）
- 学校関係者
  - ・校長（帯広市校長会：1名）
  - ・教頭（帯広市教頭会：1名）
  - ・教諭（帯広市教育研究会：4名）
    - ※国語部会2名、算数・数学部会2名
  - ・帯広市教育研究所員（2名）
  - ・高等学校関係者（市内高等学校：2名）
    - ※公立学校1名、私立学校1名
- 学識経験者
  - ・帯広市学校評議員（4名）
  - ・帯広市生涯学習推進委員（4名）
- 庁内関係者
  - ・帯広市こども未来部子育て支援課（1名）
  - ・帯広市こども未来部青少年課（1名）
- 学校教育部
  - ・学校教育部長
  - ・学校指導担当部長

#### 3. プロジェクトチーム会議の開催日程等

- ・次のとおり、計5回の会議を開催した。

- 第1回会議 平成21年11月 4日（水）  
全体会「設置の趣旨等」（出席委員 25名）
- 第2回会議 平成21年11月10日（火）  
部 会「学校への浸透①」（出席委員 20名）
- 第3回会議 平成21年11月20日（金）  
部 会「学校への浸透②」（出席委員 22名）
- 第4回会議 平成21年12月 4日（金）  
部 会「家庭への啓発」（出席委員 19名）
- 第5回会議 平成21年12月14日（月）  
全体会「まとめ」（出席委員 22名）